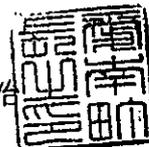




愛建発第693号
平成20年10月9日

国土交通省道路局長 様

愛南町長 谷口 長治



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のあったこのことについて、
別紙のとおり回答致します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

愛媛県愛南町

◎ 新たな整備計画を策定するうえでの費用対便益偏重の是正

昨年示された「道路の中期計画」に於いても、重要視されているのは費用対便益であり、国会・マスコミの論点もこれに集中している。しかし、これは都市と地方の格差をいっそう拡大させるものであり、全国を単一的に考えるのではなく、地域によっては外部効果等に主眼を置くべきである。

◎ 「道路特定財源」の取り扱いについて

この財源については、一般財源化が示されているが、四国西南部等高規格道路が未整備の地域にとっては、これまでのところこの財源による効果は地方道における僅かな部分のみであった。当地域は高齢化・少子化が急速に進んでいるうえ、地理的にも公共交通機関の利用は限定されており、従って一人当たりの自家用車の利用頻度は都市部の数倍になっているにもかかわらず四国8の字ルートでのミッシングリングとなっている。住民は、「道路特定財源」見直しに憤りを感じている。

◎ 要望・陳情活動について

国会議員・本省等関係機関への要望・陳情活動は、回数や要領のよさにより予算配分が実施される傾向が窺える。

「真に必要な道」への重点配分を強く要請する。

有力議員の選出地区の突出、過度の決起大会の開催を改め、経費削減の観点からも必要最小限の要望活動により適正で効果的な道路整備を望む。

②-1 地域の現状と抱える課題

◎ 現 状

愛南町は愛媛県の西南端に位置し、高知県宿毛市に隣接している県境のまちであります。

県都松山市より 150km 所要時間 2 時間半を要し、J R 予讃線の終着駅宇和島は 40km 以上離れており「陸の孤島」状態ですが、温暖な気候風土と豊かな自然に囲まれ、郷土愛とお接待の心が息づくまちであります。

本町の基幹産業は第 1 次産業であり、特に魚類養殖と柑橘栽培が主体であります、又町内の深浦漁港は四国一のカツオ水揚量を誇っています。

しかし、これらの輸送では愛南から西予市の間は唯一国道 56 号に頼らざるを得ない状況であります。

次に医療面に於いては、二次救急医療機関である県立南宇和病院が町内救急患者の 90%以上が搬送される地域の中心医療機関ですが、麻酔科医師が不在で宇和島市立病院から週 24 時間（火・水・金）の派遣により対処している。

このため、三次救急医療機関である宇和島私立病院への搬送が増加している状況で、片道 1 時間近くかかるため常に生死の不安を抱えている。

◎ 課 題

★ 地場産業の低迷と後継者問題

基幹産業の魚類養殖（ブリ、タイ）・柑橘・カツオの商品価値である鮮度は、消費地への輸送時間の短縮にかかっており、現在は高速道路まで 70km を要し、途中に渋滞が頻発している区間があり、価格や定時輸送も安定が保たれないうえに飼料・肥料等生産費用においても遠隔地で高速道路が連結されてなくその分割高になっている。

又林業の低迷は全国的な問題であるが、林野率 77%である本町は、豊かな自然の保全をまちづくりの基本理念の一つに考えているが山の荒廃は、漁場への悪影響や異常出水の原因にも考えられており、高齢化による耕作放棄地の増加や農林業における後継者不足が深刻な問題である。

★ 災害と救急医療への不安

町外へ通じる一次緊急輸送路は国道 56 号のみであり、本国道は海岸線が多く南海地震の津波予想によると町内 4 箇所が寸断される心配がある。又二次緊急輸送路となっている県道宇和島城辺線は山越えの路線で急カーブや狭隘部が多く地震発生の場合通行不能が懸念され「命の道」への不安が強い。

★ 観光客及び交流人口の誘致

四国 8 の字ネットワークのミッシングリングであり不便を来たしており、流入人口の増加は厳しい状況である。

平成16年10月1日南宇和郡内の5カ町村が合併して愛南町が誕生した、その半年後町内最大の雇用の場であった松下寿一本松工場が閉鎖され、行政改革と重なり景気の低迷が加速した。

本町の基本理念は「人と自然が共生するまち」「人と人との協働するまち」「人と地域が共栄するまち」であり、住民が主役となり「ともにあゆみ育て創造するまち」を目指して、豊かな自然を保全し、安全で安心な活力あるまちづくりを図るため、基本目標を定め計画的にまちづくりを展開しています。

基本目標

- ① 安全で快適に暮らせる美しいまちづくり
- ② 活力ある産業を育てるまちづくり
- ③ 豊かな心と文化を育むまちづくり
- ④ 支えあい健やかに暮らせるまちづくり
- ⑤ 機能的で安心して暮らせるまちづくり
- ⑥ みんなが主役のまちづくり

この目標達成には社会資本の整備が不可欠であり、特に災害に強く産業の活性化に繋がる「四国8の字ネットワーク」の整備が最重要条件であり、1日も早い実現を強く願っております。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

◎ 重点事項	◎ 代表事例	◎ 期待する効果や評価等	◎ その他
地域活力の向上	水産物・農産物の輸送時間の短縮	安定供給・価格の安定 カツオのブランド化「日帰りカツオ」	雇用の拡大・販路の拡大 急カーブ等による品質低下の防止
大規模な地震・火災に強い国土づくり	観光客・交流人口の拡大 一次緊急輸送路の確保 救急搬送路の確保	観光マップの変化 グリーンツーリズムの拡充 南海地震に対する二次的不安の解消 災害時救急医療及び三次救急医療施設への搬送不安の解消	長期滞在型のメニュー開発 リピーターの増加 国道 56 号の代替路 高齢化社会での安全・安心感の向上
良好な生活空間・自然環境の形成	山の荒廃防止 優良漁場の再生・拡大	後継者のUターン促進 耕作放棄地の拡大防止及び再開発	通勤範囲の拡大